

全ての出会いに感謝して

Yは二人目ということもあり、予定日より五日早く、陣痛から約一時間というスピード出産でした。特に大きな病気もせず、自分から寝て夜泣きもしなくて、とても育てやすかったです。

一歳半の頃には、「ワンワン」など多少の言葉が出ていたので、特に気になることはありませんでした。

しかし、二歳になっても言葉は増えず、心配でしたが『男の子は言葉が遅い』周りに刺激を受ければ話せる』と信じて、週二回、午前中のみ幼稚園の二歳児クラスに行き始めました。三歳目前にしても言葉は増えず、拘りも強く不安に感じたため、保健センターに相談したところ、済生会療育センター令和を勧められました。早速申し込みをして、受診までの三ヶ月間、主人と色々調べて不安になり、眠れなかったり、涙する日々でした。

ようやく診察の日が来て、「広汎性発達障害」との診断が付きました。この時はショックというより、先生に相談した事で肩の荷が下り、ホッとしました。先生は常にポジティブで話しやすく、困り事についての確な方法を教えて頂き、私も前向きになりました。

年少になり、幼稚園と児童発達支援事業所の並行通園が始まりました。療育センターでは、OTとSTのリハビリが始まり、毎回楽しんで訓練を受けています。幼稚園では、補助の先生を付けて頂きました。幼稚園と児童発達支援では、考え方の違いもあり、私自身もYにとつての最適な支援が分からず、いこいの保育所等訪問支援を利用し、月一回幼稚園に行つて頂いたのは心強かったです。クラスのお友達も何かあれば助けてくれたり、Yが近くに居る時は、どの先生も気にかけてくれて、安心出来る環境で過

ごせました。

Yにとつては過ごしやすい環境でしたが、他の子と明らかに違う成長のスピード、就学に向けて、このままで良いのか非常に悩みました。主治医をはじめ、Yを支援して下さる方々の助言を受け、夫婦で何度も話し合い、年長の一年ですが、幼稚園を退園し、いこいに行く事を決めました。

いこいでは、先生方が子供だけでなく、保護者のフォローもして下さったり、同じ立場のお母さん達と共感出来て、気持ちも楽になりました。自分から進んで着替えたり、指示も通りやすく、出来る事も増えてきました。Yには今何がベストか？を考えてくれる方が沢山いるので、私も明るく笑顔でいようと思います。困っている時には、必ず手を差し伸べてくれる人がいます。ペアレントメンターや先輩ママ達の交流会にも参加し、何度も救われてきました。これまでYに関わって頂いた皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。これからもよろしく願います。

Yくん(五歳)のお母さん